

城西大学水田記念図書館 図書館・学長室学務課（研究支援）共催 研究倫理講演会（著作権も含めて）

# 「研究と論文と不正」

日時：2024年12月12日（木）15:40～17:25

会場：オンライン（Zoom）

講師：時実象一先生（東京大学大学院高等客員研究員）

参加者数：69名 アンケート回答者：49名（回収率 =71.0%）

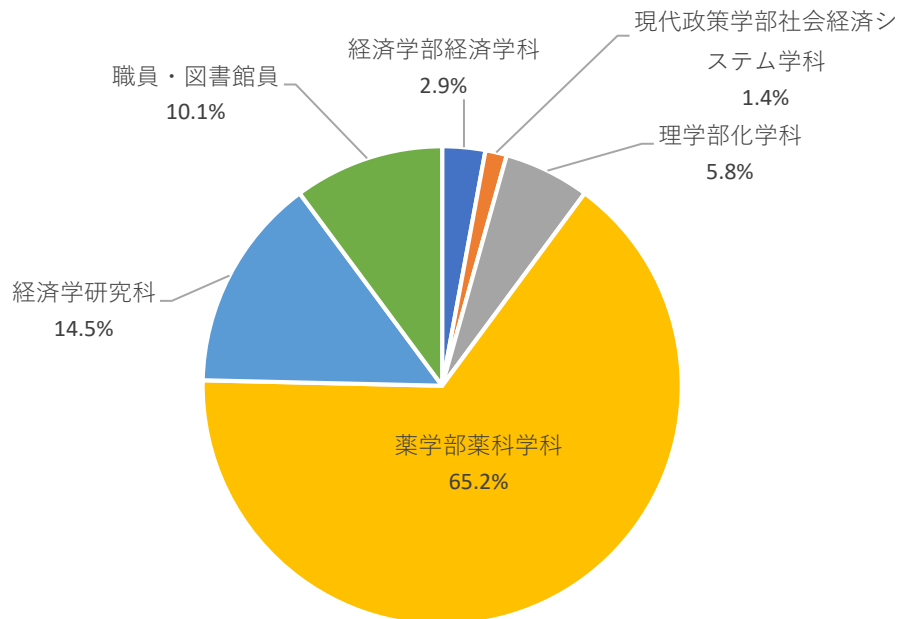
薬学部薬科学科「実習F」授業との連携で実施

## 参加者数内訳

単位（人）

経済学部経済学科	2
現代政策学部社会経済システム学科	1
理学部化学科	4
薬学部薬科学科	45
経済学研究科	10
職員・図書館員	7
合計	69

## 参加者数内訳

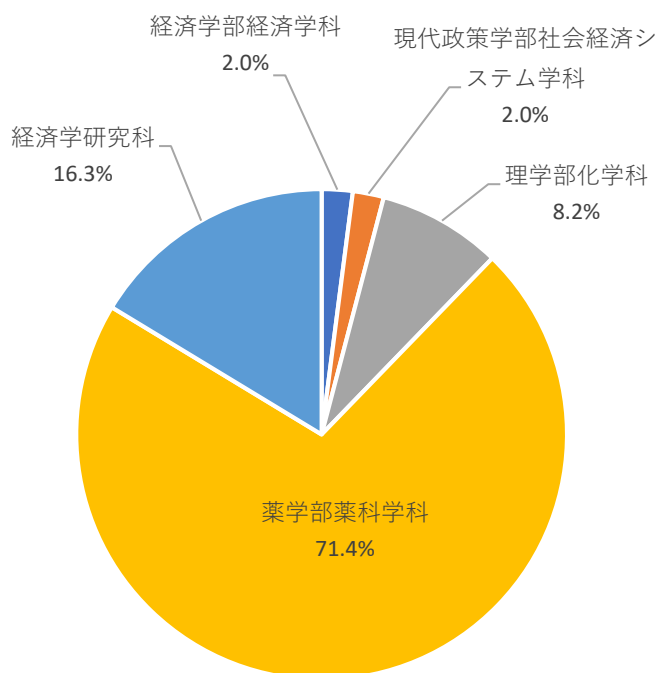


## 回答者数内訳

単位 (人)

	1年	2年	3年	4年	合計
経済学部経済学科	0	1	0	0	1
現代政策学部社会経済システム学科	0	0	1	0	1
理学部化学科	0	1	0	3	4
薬学部薬科学科	0	0	35	0	35
経済学研究科	1	7	0	0	8
合計	1	9	36	3	49

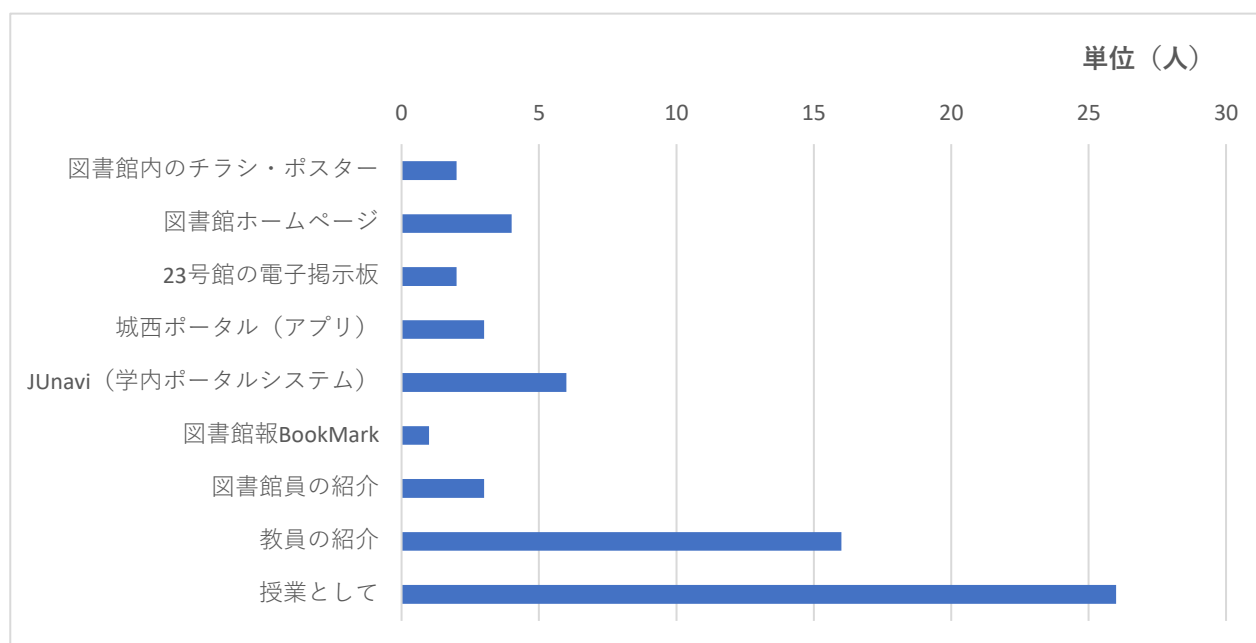
## 回答者数内訳



1) 今回の講演会を何で知りましたか？（複数回答可）

単位（人）

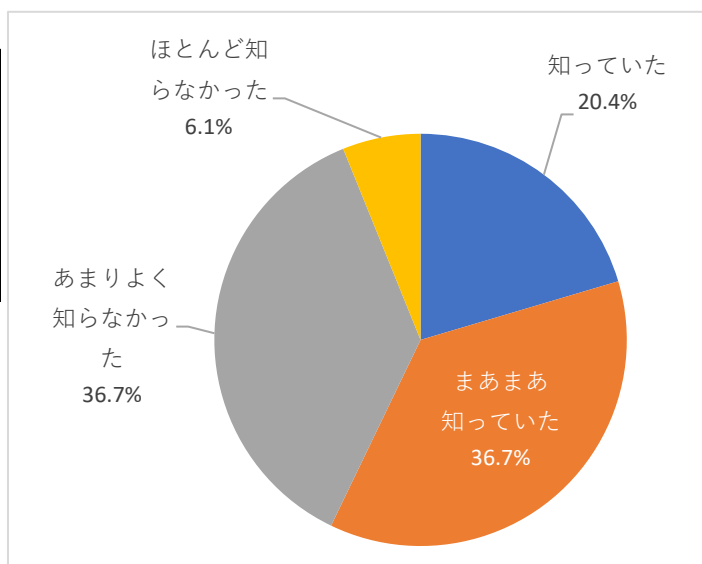
図書館内のチラシ・ポスター	2
図書館ホームページ	4
23号館の電子掲示板	2
城西ポータル（アプリ）	3
JUnavi（学内ポータルシステム）	6
図書館報BookMark	1
図書館員の紹介	3
教員の紹介	16
授業として	26



2) 今回の講演を聴く前に、研究倫理・著作権・剽窃についてどの程度知っていましたか？

単位（人）

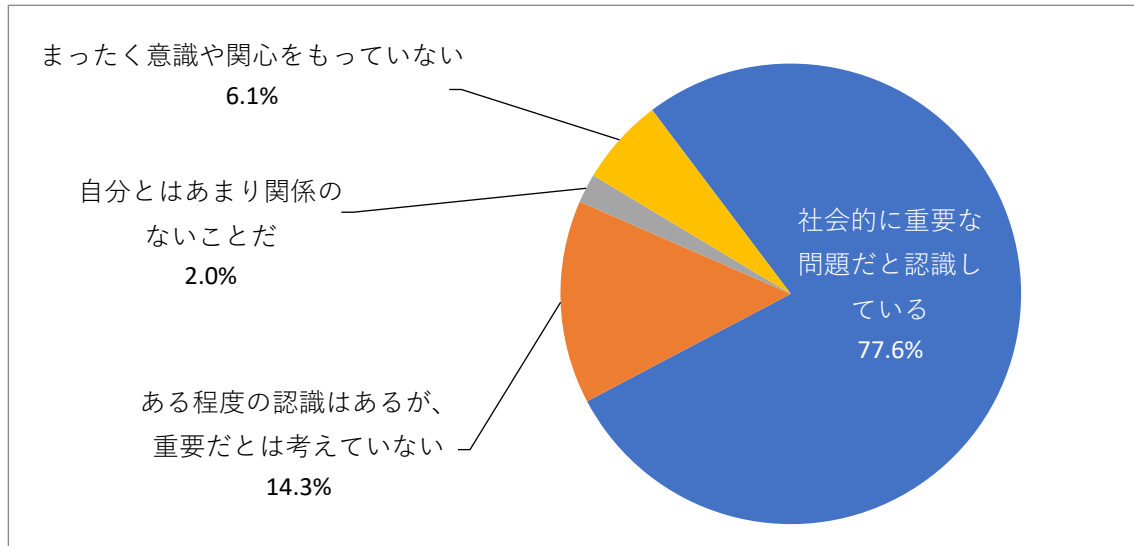
知っていた	10
まあまあ知っていた	18
あまりよく知らなかった	18
ほとんど知らなかった	3
合計	49



3) 論文執筆に係わる剽窃等が社会的な問題となっていることについて、どのような意識を持っていますか？ 最も近いと思うものをひとつ選んでください

単位 (人)

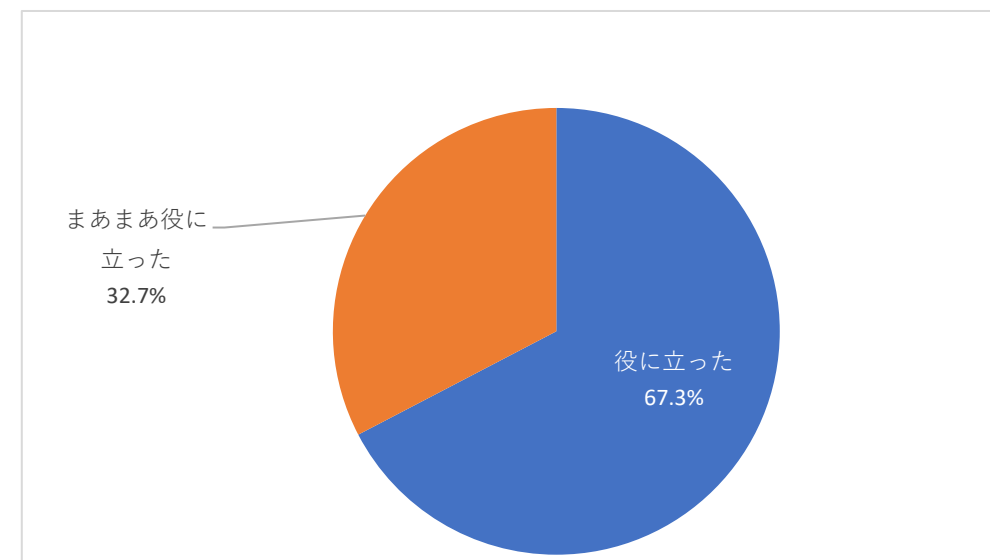
社会的に重要な問題だと認識している	38
ある程度の認識はあるが、重要だとは考えていない	7
自分とはあまり関係のないことだ	1
まったく意識や関心をもっていない	3
合計	49



4) 今回の講演会は役に立ちましたか？

単位 (人)

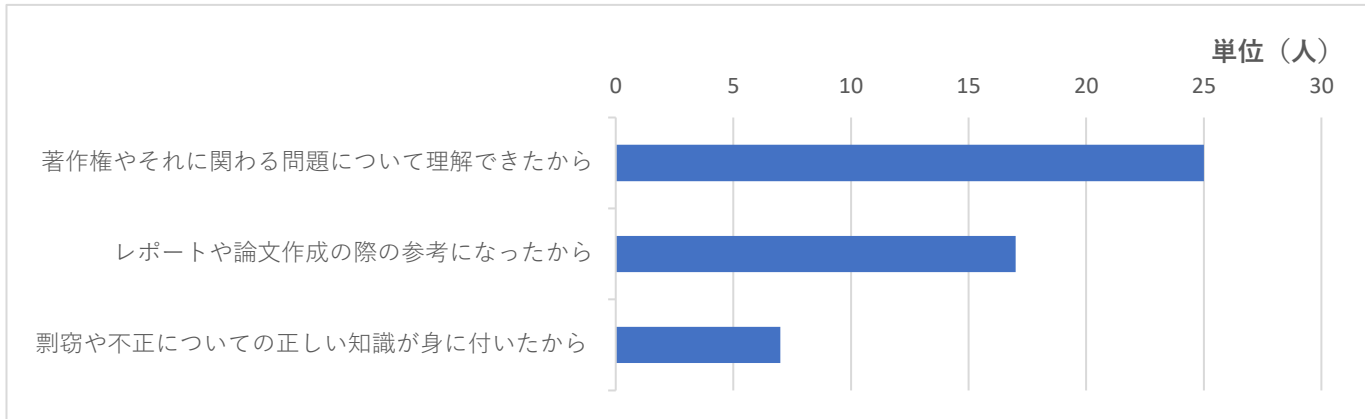
役に立った	33
まあまあ役に立った	16
あまり役に立たなかった	0
役に立たなかった	0
合計	49



## 4)-1 「役に立った」「まあまあ役に立った」を選んだ理由は何ですか？（複数回答可）

単位（人）

著作権やそれに関わる問題について理解できたから	25
レポートや論文作成の際の参考になったから	17
剽窃や不正についての正しい知識が身に付いたから	7



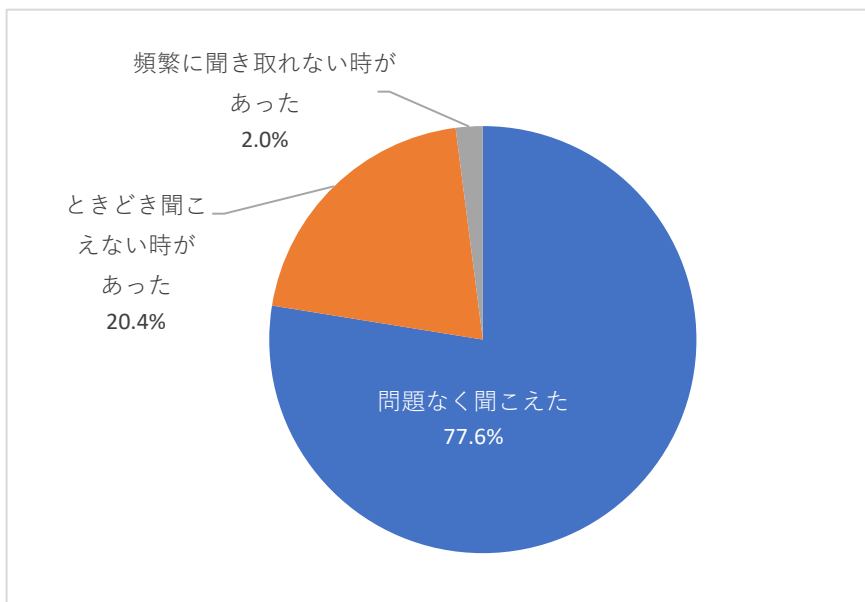
## 4)-2 「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」を選んだ方は、理由があればお書きください

回答なし

## 5) オンラインでの音声は聞き取りやすかったですか？

単位（人）

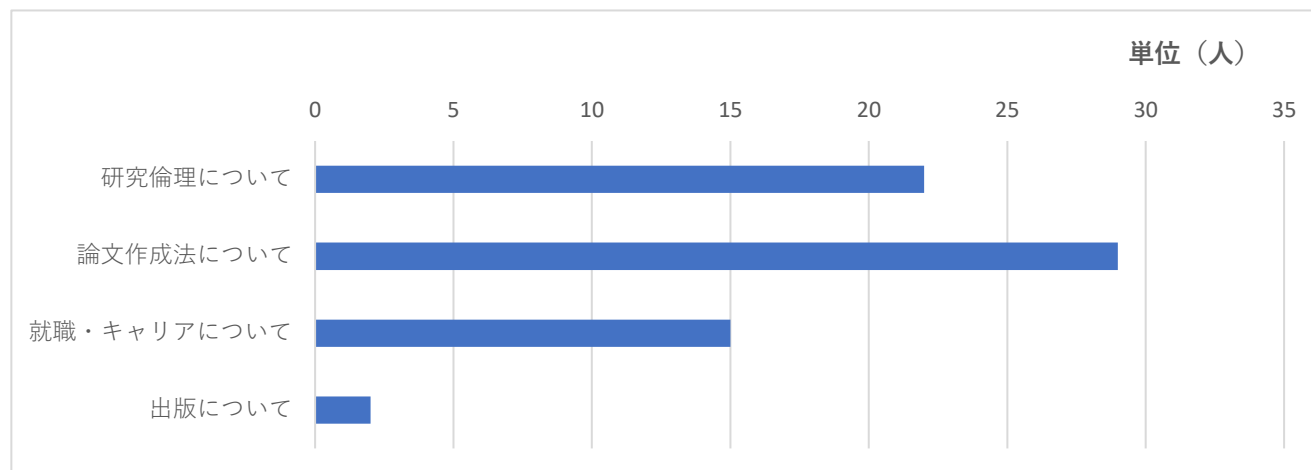
問題なく聞こえた	38
ときどき聞こえない時があった	10
頻繁に聞き取れない時があった	1
まったく聞き取れなかった	0
合計	49



## 6) 今後、図書館のどのような講演会・講習会に参加してみたいですか？（複数回答可）

単位（人）

研究倫理について	22
論文作成法について	29
就職・キャリアについて	15
出版について	2



## 7) 今回の講演に関して、ご意見・ご感想をお書きください

貴重な講演、大変ためになりました。ありがとうございました。	3
役立つ講演会だった。	2
ありがとうございました。	2
これからは生かしていきたいと思います。	1
しっかり学べました。	1
具体例があり、わかりやすかった。	1
今まで知らなかったことを詳しく知ることができて勉強になった。	1
今後も出典などをきちんと記載するようにしようと思いました。	1
質疑応答でとたんに雰囲気が悪くなったのが気になりました。	1

講師 時実象一先生より

質疑応答における「並行投稿」の禁止についての補足

投稿論文の査読については、査読者に費用を払っていないのが通常ですが、それにも関わらず、多大の時間と労力を研究者にお願いしております。

並行投稿するということは、その査読の労力を複数の出版社・学会に無駄に負担させる結果となり、その事実が判明した場合、査読者から抗議が殺到することは避けられません。

ほとんどの出版社・学会が並行投稿を厳しく禁止しているのは、これが大きな理由と考えられます。

ただでさえ、査読者を見つけることに各雑誌とも苦勞している現状から、この点は譲れない線かと思われ  
ます。